

エレガントで美しい歌声にしばし時間を忘れました



2019年度最後のイベント、千葉オペラによるボランティアコンサート“春を待ちこがれて”が2月13日(木)午後6時半から、外来ホールで開催されました。優雅なロングドレス姿の合唱団13人と指揮の中村邦男さん、ピアノの堀井泉さんの総勢15人が、普段はなかなか味わえないような、楽しく豊かなリラックスタイムを提供してくださいました。

「荒城の月」で始まったプログラムは「花の街」「日本の歌メドレー」と続き、なかには「茶摘みの歌」で手拍子、「村祭り」では足で拍子をとるなど、患者さんも身体を使って音楽と一体になって楽しめました。「みんなで歌おうの」のコーナーでは、メンバーが患者さんの席に散らばって、「どこかで春が」「早春賦」を一緒に歌う場面もあり、とても和やかな雰囲気。「ホフマンの舟歌」でデュオを務めた二人の年齢が合わせて168歳、と後からアナウンスがあり、若々しい歌声に、みなさんびっくりしました。「天使の糧を」「アヴェ・マリア」をソロで歌われた和泉由貴さんのソプラノは、外来ホールに響き渡る圧倒的な歌声。スマホで撮影する患者さんもいらっしゃいました。アンコールで歌われた竹内まりあの「いのちの歌」では涙する方も。「病気になって、この歌の重みがすごく分かりました。コンサートの選曲がとても良かったです」と感想が寄せられました。千葉オペラのみなさん、素敵な時間をありがとうございました。

